

『大腸癌における高感度プロテオーム解析を用いた新規バイオマーカーの探索』

本研究は、京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けて実施しています。

主研究機関名：京都大学消化管外科

共同研究機関名：がん研究会有明病院消化器センター大腸外科 長山聡、がん研究会がん化学療法センター基礎研究部 片山量平、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所創薬基盤研究部プロテオームリサーチプロジェクト

研究責任者：小濱和貴

研究実施期間：2017年4月3日～2023年3月31日

試料・情報の管理責任者：笠原 桂子

研究内容：本研究は、大腸癌治療における新たなバイオマーカーや新たな治療標的となりうるタンパク質を同定することを目的に、2010年から京都大学医学附属病院消化管外科で大腸癌の切除術を受けた患者さんのうち、「消化器癌の発癌、進展、転移に関わる遺伝子解析」研究に同意頂いた方の手術摘出標本や血液を用いて解析を行い、カルテより情報を抽出し、転移や予後との関連を調査します。京大キャンサーバイオバンクに登録頂いた方の試料についても同様に解析を行います。がん研究会有明病院からも試料や情報が提供されます。試料の解析については、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所プロテオームリサーチプロジェクトにおいても行います。匿名化された試料や情報を解析し、直ちに個人を特定できるような情報は施設外へは提供しません。遺伝子解析については、京都大学で行い、原則的には解析結果を直接患者さんにお伝えすることはありません。ただし、解析精度などの問題点を考慮してもなお、患者さんや代諾者の方に結果をお伝えした方が有益だと倫理委員会でも判断された場合に限り、患者さんや代諾者の方にその結果の説明を受けるか確認のうえ、希望があった時のみ、説明を行います。遺伝子解析結果は、研究の進捗により共同研究先においても共有が必要だと判断された場合には、倫理委員会に確認のうえ提供を検討します。研究の成果は、世界的な視野で更なる研究の発展を促進しうると判断した場合、個人が特定できないように匿名化を行った上で、学会発表、学術雑誌およびデータベース上で公開することがあります。研究資金は、消化管外科寄附金・研究助成金等を予定しています。研究対象とならないことを希望される場合には、いつでも試料および情報の提供の中止が可能で、それにより不利益を被ることはありませんので、京都大学消化管外科まで連絡をお願いします。また、その他の相談は、京都大学医学部附属病院臨床研究相談窓口（Tel 075-751-4748、E-mail ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp）までお願いします。当研究の利益相反については、「京都大学利益相反ポリシー」「京都大学利益相反マネジメント規程」に従い、「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査されています。

（研究担当：消化管外科 笠原桂子）